

強者の戦略

東大日本史のみかた 43 [問題編]

第 43 回となる今回は 2020 年の東大日本史の第 3 問を取り上げてお話をしていきたいと思います。さあ、しっかり問題を考えてみてください。

【2020 年度 東京大学 文科前期 第 3 問】

次の (1)～(5) の文章を読んで、下記の設問 A・B に答えなさい。

- (1) 日本では古代国家が採用した唐の暦が長く用いられていた。渋川春海は元の暦をもとに、明で作られた世界地図もみて、中国と日本（京都）の経度の違いを検討し、新たな暦を考えた。江戸幕府はこれを採用し、天体観測や暦作りを行う天文方を設置して、渋川春海を初代に任じた。
- (2) 朝廷は幕府の申し入れをうけて、1684 年に暦を改める儀式を行い、渋川春海の新たな暦を貞享暦と命名した。幕府は翌 1685 年から貞享暦を全国で施行した。この手順は江戸時代を通じて変わらなかった。
- (3) 西洋天文学の基礎を記した清の書物『天経或問』は、「禁書であったが内容は有益である」と幕府が判断して、1730 年に刊行が許可され、広く読まれるようになった。
- (4) 1755 年から幕府が施行した宝暦暦は、公家の土御門泰邦が幕府に働きかけて作成を主導したが、1763 年の日食の予測に失敗した。大坂の麻田剛立ら各地の天文学者が事前に警告した通りで、幕府は天文方に人員を補充して暦の修正に当たらせ、以後天文方の学術面での強化を進めていった。
- (5) 麻田剛立の弟子高橋至時は幕府天文方に登用され、清で編まれた西洋天文学の書物をもとに、1797 年に寛政暦を作った。天文方を継いだ高橋至時の子渋川景佑は、オランダ語の天文学書の翻訳を完成し、これを活かして 1842 年に天保暦を作った。

設 問

- A 江戸時代に暦を改めるに際して、幕府と朝廷はそれぞれどのような役割を果たしたか。両者を対比させて、2 行以内で述べなさい。
- B 江戸時代に暦を改める際に依拠した知識は、どのように推移したか。幕府の学問に対する政策とその影響に留意して、3 行以内で述べなさい。